

# 幼 兒 の 教 育

昭 和 十 年 九 月

## 雜 草

休暇あけの幼稚園の庭が、また雑草園になつてゐる。子ぎもを迎へるに何も格別の準備のない中で、こればかりは大した準備だ。

子ぎもを迎へる第一の用意は、さうして、子ぎもたちの心を、らくにさせ得るかにある。準備々々心を入れ過ぎて、餘りに隅々事毎にキチンとしてゐるを、子ぎもは一種の窮窟を免れないであらう。と言つて、餘りの亂雑不秩序は、子ぎものやわらかい心を面くらはせ、らくを通り越して混沌たらしめるであらう。むつかしいのは其の中間であり、中庸のよろしきを得ることである。

建築内は、入口も廊下も室も、床も窓も天井も、掃き清められ、拭ひ清められてゐなければならぬ。庭も、刈るべき芝を整理すべき枝には充分手が入れてなければならぬ。植ゑた花壇を鉢もちやんを掃除されてゐなければならぬ。そうした上で、伸びるがまゝに伸びさせられ、茂るがまゝに茂らされてゐる雑草園こそ、教養の間に漏れてゐる天真の素朴さのやうなものである。以て、子ぎもの心に、何より自然ならく、を與へずにはゐらないであらう。

(倉橋生)